

平成30年度 学校自己評価システムシート（学校法人佐藤栄学園 さとえ学園小学校）

| | |
|--------|------------------------------|
| 目指す学校像 | 本学建学の精神「人間是宝」の理想を具現化した教育の実践。 |
|--------|------------------------------|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 本校教育の基本方針に基づき、計画的且つ円滑な教務・校務業務の遂行。 「本当のリーダーを育てる学校」を具体的な目標として共通理解を進め、その具現化に向けての授業作り 学校と家庭との連携「共育」を軸に、信頼関係を保つ学校運営。 |
|------|---|

| | | |
|-----|---|-------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 |
| | B | 概ね達成 |
| | C | 変化の兆し |
| | D | 不十分 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | |
|-------------|--|----------------------------------|--|--|-----|---|
| 年 度 目 標 | | | | 年 度 評 価 | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | 教務・進路入試センターの分掌（担当）において業務が進められているが、学校運営の根幹を担っている上記分掌が効率的に行われているかを確認。また、その他の分掌・係との連携によって、学校運営が円滑に行われているかを確認。 | 分掌ごとに業務計画・学期ごとの業務報告に評価項目を具体的に記載。 | 年度初めに各分掌が年間業務計画を立案。各学期末に業務報告を行い、目標達成度、現状における課題を見つけ、その方策を立てて次学期の業務遂行に反映させる。 | 各分掌が計画的に業務を遂行。また、学期末ごとに現状を把握し、次学期には改善を行った。 | B | より良い円滑な業務遂行のために、次年度は業務の指示系統・各書類の流れを一元化し迅速且つ漏れの無いようにしたい。『進路入試センター』と教務との連携のとれた業務の遂行。 |
| 2 | 教科会・特色教育・複合型教育・課外活動・研修・児童会等の各分掌において、「本当のリーダーを育てる学校」を念頭に置きながら、教育目標の実践と学習指導と生活指導の一体化を推進することを通して、子どもの内在する可能性を拓く。新学習指導要領の完全実施に伴うカリキュラムの見直しと作成。 | 分掌ごとに業務計画・学期ごとの業務報告に評価項目を具体的に記載。 | 年度初めに各分掌が年間業務計画を立案。各学期末に業務報告を行い、目標達成度、現状における課題を見つけ、その方策を立てて次学期の業務遂行に反映させる。 また、年に2回の保護者との個人面談での意見や、授業参観日に行なわれるアンケートを参考としてこれまでの各業務の現状を修正。 校内研修を頻繁に行い、日々の授業改善、教育技術の向上を図る。 | 各分掌が計画的に業務を遂行。また、学期末ごとに現状を把握し、次学期には改善を行った。 | B | 「本当のリーダーを育てる学校」の具現化のための具体的な教育実践を多く取り入れる。総合的な学習の時間の整備、英語科の習熟度別授業・体験学習など教える側(教師)に立つ学習の展開ではなく、子どもが学習の主体となるような学習を推進する。 新学習指導要領に対応した教育課程・ICTの積極的活用『学習の手引き』の検討・作成。体験学習の充実。学習評価のブラッシュアップ。 |
| 3 | 保護者に対する様々な情報の発信、保護者の参加する学校行事、保護者会活動の充実。 学園後援会活動に際して、保護者・教職員のより一層の積極的な活動参加により信頼を保った学校運営を行う。 | 分掌ごとに業務計画・学期ごとの業務報告に評価項目を具体的に記載。 | 年度初めに各分掌が年間業務計画を立案。各学期末に業務報告を行い、目標達成度、現状における課題を見つけ、その方策を立てて次学期の業務遂行に反映させる。 | 各分掌が計画的に業務を遂行。また、学期末ごとに現状を把握し、次学期には改善を行った。 | B | 保護者会活動については、事前に年間計画を立て、多くの保護者が主体的に開かれた活動に参加出来るようにする。 |
| その他 | 本校に於いては、上記の重点目標のほかに施設設備・備品管理・視聴覚機器・情報機器・環境美化・防災教育・学校保健・事務(経理・庶務)などの校務分掌にて独自に目標を設定し、各学期末に業務報告を行い、次学期・次年度への課題・改善策を講じている。 | | | | | |

| 学校関係者評価 |
|--|
| 実施日 令和元年6月1日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 概ね達成されたと考えられる。ただ毎年のことであるが、年度始めには教職員の異動、着任があるため、円滑な教務の引き継ぎを願いたい。 教師は学力向上だけでなく、生活習慣や対人形成まで担う職業です。人間形成の面におけるストレスに更なる配慮が必要だと考えます。 実際に入学されている低学年の保護者の方たち間で説明会では12年一貫教育と提示しているが、全員が行けるわけではなく、外部に出ている子も多数いるので、想像していたシステムと違うという意見を耳にします。説明会でも栄東中のことばかり説明しているので、もう一つの系列校である埼玉栄の良いところももう少し良く説明するべきなのではと思います。 |
| 昨年同様、学習指導と生活指導の一体化は重要であると感じます。学習指導要領の変更に沿った教科会、特色教育などのカリキュラムの対応が必要と思います。 ICT導入により手書きの機会の減少が気になります。目的に応じた使い分けに配慮していただきたいです。 ICTを使用した学習は慣れてきて特に高学年では便利に使いこなせているのではないかと思います。定期テストのレベルは年々上がってきているような気がします。学校の授業だけでは不十分で塾に通っている子も多く、もう少し点が取りやすくなると苦手意識がなくなったり、勉強が嫌いな子減るのかなと思います。そのようなお考えの方は何人かお聞きしています。ですが、系列校の進学を考えると仕方ないのかもと思います。 |
| 保護者会活動については高学年になればなるほど積極的な参加と無関心の二極化が現れ、保護者会活動も教育一環であることを自覚してほしい。 模範となる本部役員の自覚をしっかりと持つように、その行動規範を明確にかつ書面化することが必要だと考えます。全ての活動に関する情報の透明性もより高める必要があります。 昨年交通安全部では交通安全キャンペーンなど新たな取り組みがありました。が、それでも一般の方からの苦情が絶えることはなくまだまだ注意していかなければならない案件かと思えます。それから保護者会の支援が大変すぎると次年度のなり手がなくなってしまうので、少し考察する必要があるかもしれないと思います。 |
| 学校の環境については問題ないと思います。教職員と児童には認識不足はないが、保護者の中には理解不足は否めない。 |